

## フィールドワーク(台湾):教育史学ゼミ

令和7年2月24日(月)から26日(水)、道徳教育ゼミと教育史学ゼミはフィールドワークを合同実施しました。行き先は台湾で、日本統治時代に縁ある史跡を巡ることと現地の学校視察が目的です。中部国際空港を発ち、まずは故宮博物院に足を運びました。所蔵されている様々な至宝に魅了されました。夕方には芝山公園を訪問。明治29(1896)年1月1日、同地の芝山巖学堂で教鞭を執っていた教師6名と用務員が殺害される事件[芝山巖事件]が発生しました。功績により殉職者は長く人々に顕彰されています。

2日目は早朝より、台北市内の学校[午前・志清国民小学、午後・瑠公国民中学]を視察。台湾では教科としての道徳が無く、教育活動すべてで道徳の指導が行われていました。日本で言う「道徳教育の全領域主義」の方針です。ICT教育も積極的に推進され、タブレットPCを活用する授業を参観しました。中学校では社会科を参観。授業展開が上手な先生のもとで、ゲームを交えながら基本的人権および「平等」と「公平」について考える内容でした。

台湾も地震が頻発する国です。当日、抜き打ちの防災訓練に遭遇しました。統率のとれた行動で、全員が速やかに運動場に集合できていました。災害は忘れた頃に襲ってくるため、普段の訓練が重要だと再認識した次第です。

3日目午前は待望の自由行動。市内の観光地を訪問して、ショッピングやグルメを満喫しました。午後から桃園国際空港に移動して出国手続き、21時頃に無事に帰国できました。短い期間でしたが、先生方や子どもたちと交流できて、思い出に残る研修でした。ツアーガイドの張さんには、通訳のほか様々にお世話になり感謝しております。

海外が初体験の学生が多くいました。日本と異なる事柄に戸惑うことがあり、トラブルが生じる場面がありました。異文化を経験して、日本での生活や自分自身を問い直す機会になったと思います。学生の海外での危機意識の希薄さが気にかかりました。「旅の恥はかき捨て」と言いますが、失敗した経験はそのままだと、今後の反省材料にしたいものです。



〈世界に誇る故宮博物院〉



〈六氏先生に献花〉



〈リーダーシップある校長先生〉



〈児童による学校紹介〉



〈社会科の授業風景〉



〈交流会〉